

# カトリック 仙台教区報

2005年5月1日 No.163

発行  
カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12

Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378

発行責任 広報委員会

URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

## 「生きるも死ぬも主のため」 教皇ヨハネ・パウロ2世を悼む

教区管理者 平賀 徹夫

教皇ヨハネ・パウロ2世の逝去の報は、仙台教区の私たちと全世界の教会に深い悲しみをもたらしました。26年半もの長い間、私たちの父として、全教会の最高指導者として、いや教会だけでなく現代世界の指導者として、大変な重責を担い、果たし続けてこられた教皇ヨハネ・パウロ2世を、私たちは失いました。

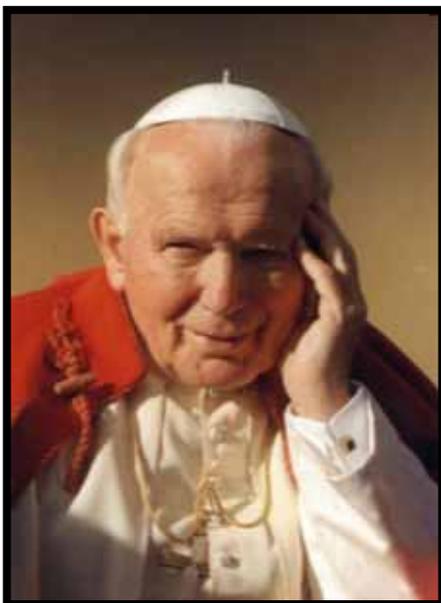
去る4月3日、日曜日、朝6時のNHKラジオのニュースで、「法王ヨハネ・パウロ2世のご死去」と聞いた時、「ああ、とうとう」という鋭い痛みを覚え、大きな喪失感に居ても立ってもいられない思いになりました。

このような私たちに、主イエスは、呼びかけています。「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、私をも信じなさい」(ヨハネ14・1)と。

教皇ヨハネ・パウロ2世は、「生きるもすれば主のために生き、死ぬもすれば主のために死ぬのです」(ローマ14・8)

という使徒パウロの言葉をそのまま生き抜いた人、と言えるでしょう。

ヨハネ・パウロ2世が教皇に選ばれた1978年10月、私はたまたまローマに居合わせ、教皇選挙



の時、システイナ礼拝堂のところに煙突から流れ出る煙を見ました。新しい教皇には、カロール・ヴォイティワ枢機卿が選ばれました。その出身国がポーランドと分かる、私の隣にいたイタリア人のおじさんがびつくりして、茶目つ気たつぷりに、「共産主義者か?」と話しかけてきたことを思い出します。ともかく、東西冷戦の最中、世界の分裂の溝が最も深かったとき

に東ヨーロッパの国から選出された教皇ヨハネ・パウロ2世が26年半にわたる在位中に、教会の中でそして全世界にむけて果たした役割は、語りつくすことは出来ません。発表された文書やメッセージは数も量も、膨大なものです。教皇ヨハネ・パウロ2世のものの考え方、その生涯の生き方、教会に対してそして世界に向けて発信し続けたメッセージの絶対的な

原点は、父である神が創造してつくしんで下さり、主イエスが十字架にかかるまでしてあがなってくださった「いのちの尊厳」を守るといふことです。

そのために教皇ヨハネ・パウロ2世は、絶えず世界の平和を呼びかけました。人類の一致への呼びかけです。キリスト教世界の諸教会の融和、キリスト教に限らず諸宗教との対話を働きかけ、宗教者としての務めを一緒に果たすようにと呼びかけました。また、宗教界にとどまらず、政治的な分野にも、経済的な分野にも発言しました。「いのちの尊厳」を踏みこじる最たるものとして、「戦争は死です」と批判して、特に政治的指導者に向けても警鐘を鳴らし、債

権国に対して債務国の債務帳消しを呼びかけもしました。人類の分裂の苦しみ・差別・貧困など、いのちの尊厳をおとしめる全てのことを乗りこえ、「愛の文明」が支配する世界を、と提唱し続けました。弱い立場の人、病者、障がいを負っている人、子どもたち、難民、暴力にさらされている人、女性たちに、優先的に心をかけていきました。

また、特筆すべきことの二つは、教皇ヨハネ・パウロ2世は、希望を失うことはなかった、ということとです。いのちの尊厳を損なう事柄であふれている現実にあっても、教皇は子どもたち、青少年を本当にいつくしんでいた、ということとです。平和が実現する未来を青少年に託すことができるのだ、と見ていたのでしょう。

教皇ヨハネ・パウロ2世の逝去を悼む私たちは、教皇の生き方、精神の根本にあったものを受け継ぎ、平和のため、愛の文明のため、いのちの尊厳を守るために、私たち自身も主イエスの呼びかけに、教皇と同じように、「はい、主よ、信じます」と答え続けていくことをあらためて決心したいものと思います。(4月9日教区主催追悼ミサ説教より抜粋)

# ヨハネパウロ二世 遺徳を偲び追悼ミサ

仙台教区主催「教皇ヨハネ・パウロ二世追悼ミサ」が4月9日（土）午後2時から、仙台教区カテドラル・元寺小路教会で、教区管理者平賀徹夫師主司式のもと17名の司祭による共同司式で行われた「写真」。聖堂内は、教皇の遺徳を偲ぶ信徒ら、約七〇〇人が集い超満員となった。ミサにはルーテル教会杉山昭男牧師、立正佼成会・安藤元昭師、仙台市会議員・屋代光一氏が参列。また、ハリストス正教会セラフイム主教から弔電が届いた。追悼ミサの終りに、司式した司祭全員が教皇の遺影を囲んで「サルベレジナ」



を歌い、献香した。続いて、参列者達の献香の長い列が続いた。

## ヨハネパウロ二世の思い出

子ども好きの教皇様

シスター三武 寛子

(聖パウロ女子修道会)

私が、ヨハネ・パウロ二世と初めてお目にかかったのは、イタリアのアルバーノという町にある病院でした。そのころ私は修道会が運営しているアルバーノ使徒の女王病院の小児科で、看護婦として働いていました。

アルバーノは教皇様が夏の間に休暇をとられるカステル・ガンドルフオの近くで、教皇様がお滞在中は健康面の責任をもつという任務を与えられている病院です。そのため、教皇様はご就任後、わりに早い時にアルバーノの病院をご訪問くださいました。

子ども好きの教皇様は、すぐ私に世話をしている子どもたちに気づかれ、近寄って来られました。

子ども達の母親たちは、何とか我が子を、教皇様にだっこしてもらいたいと必死になって、子どもを背中を押して、教皇様の所に行かせようとしていました。ところが、教皇様の白い衣のお姿を見た一人の男の子は、医者と勘違いしたのでしよう、ワンワン泣き出していた。教皇様のおそばに行くどころか、母親にしがみつく始末です。それにくらべ、女の子はみんな、我先にと教皇様のところに駆け寄りまします。

教皇様はニコニコして、教皇様を怖がっている子どもを時々見ながら、近寄って来た子どもたちの頭をなでたり、祝福したりした後、ベッドに休んでいる子どもたち一人ひとりのところをまわって、祝福してくださいました。今、教皇様のご逝去の知らせにあの時の教皇様の若々しい笑顔とともに、この思い出が一気にわき上がってきました。

### 「去年の今ごろ、パチカン」

大船渡教会・山浦 玄嗣

去年四月二十八日（水）朝、ロームは雲ひとつない晴大だった。聖ペトロ大広場には全世界から参集した一万五千人の巡礼者がぎっしりと詰めかけて、教皇聖下のお話を耳を傾けていた。

## 塩と光

今や、この世から父のもとに過ぎ越されるときイエスは、祈ってくださいました。「父よ、あなたがわたしの内におられるように、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。・・・わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。わたしが彼らの内におり、あなたがわたしの内におられるのは、彼らが完全に一つになるためです」(ヨハネ17・21・23)。

イエスが祈られたわたしたちな画一的なものではなく、むしろ多様性の一致に他なりません。キリストのからだを形成する教会は、お互いがそれぞれ違っているからこそ、お互いを必要としています。また、十人十色である一人ひとり、あるがまま受け入れなければなりません。けれども、父と子と聖霊の交わりと一致が、わたしたちの交わりと一致の基礎になるために、まずお互いを赦し合うことが前提条件です。しかも、相手を心から救済することができるのは、すでにいただいている聖霊の働きのお陰なのです(ヨハネ20・22・23参照)。

(博)

## 教皇ヨハネ・パウロ二世のおゆみ

1920	ポーランド・クラクフ近郊に生まれる
1946	司祭叙階・ローマで神学を学ぶ
1958	司教叙階・クラクフ教区補佐司教になる
1964	クラクフ教区の司教として着座
1967	教皇パウロ6世より枢機卿に親任される
1978	第264代教皇に選出・ヨハネ・パウロ二世と名乗る
1979	ドミニカ共和国・メキシコなどを訪問
1981	来日・東京、広島、長崎を訪問。広島で「平和アピール」を発表 サンピエトロ広場で銃撃され重傷を負う
1982	コルベ神父を列聖
1987	トマス西と15殉教者を列聖
1989	ソ連ゴルバチョフ書記長と会見
1990	ソ連とパチカン市国の国交樹立
1994	イスラエルとパチカン市国の国交樹立 白柳誠一大司教を枢機卿に親任
1996	核実験全面禁止と、地雷全面禁止を訴える
1998	キューバ訪問、アジア特別シノドス開催 濱尾文郎司教を教皇庁移住・移動者司牧評議会議長に任命し、大司教とする
1999	ルーテル教会と「義認の教理についての共同宣言」に調印
2000	大聖年、イスラエル、中東聖地の歴史的巡礼
2001	パーキンソン病と主治医が発表 使徒的書簡「新千年期の初めに」を発表 シリアにてモスクに入る最初の教皇となる
2003	教皇在位25年、マザーテレサを列福 濱尾文郎大司教を枢機卿に親任
2004	「聖体の年」開幕。聖遺物を東方教会に返還
2005	入院し気管切開手術を受ける 4月2日9時54分逝去。84歳

大聖堂前の高い段の上に聖座が据えられ、われわれはそのすぐ横に特別席を与えられて、感激に震えていた。多分わたしの一生はこの日のためにあったのだと思っ

た。献上するケセン語訳四福音書を携えて、黒紋付きに仙台平の盛装で御前に伺候したとき、目前に拝するヨハネ・パウロ2世の御顔に往年の颯爽たる男ぶりは見るべくもなく、老衰と病苦のために背も首も曲がり、顔が胸の前にあるようなお姿であった。



御顔は顔面神経麻痺と思われる、左目が大きく見開いてほとんど閉じることができず、右目は垂れ下がった瞼の奥にあった。御声はしわがれてほとんど聞き取れず、わたしに掛けてくださったお言葉

も理解不能だった。

しかし、その御手を戴いて接吻したとき、全身に何とも言えない温かさが染み渡るのを感じた。自分は今偉大な人間に結ばれている、この温もりが全世界の人々を優しく抱いて、神さまを指し示しているのだと思った。

聖下が逝去された今でもわたしの胸にはあの時の熱い思いが消えぬ炎となつて燃えている。この思いを抱いて、さあ、一足、外さ飛びだすべア！

「平和の巡礼者」

シスター長谷川 昌子

(聖パウロ女子修道会)

私が教皇様にお目にかかったのは、5、6回にすぎません。その中でも忘れられない教皇様は、なんといつても訪日の際の教皇様と、2001年にお目にかかった教皇様です。

1981年の訪日の時の教皇様は、さつそつとしていて、若々しく、エネルギーが、疲れを知らない使徒そのもののお姿でした。日本のカトリック教会の信徒だけでなく、キリストをまだ知らない日本人すべてを心に抱いて「平和の巡礼者」としてのお姿を見せ、また、いろいろな心遣いを見せてくださいました。

2001年にお目にかかった教皇様は、訪日の際の面影が感じられないほどになっていらつしやいました。

修道会の総会がローマ近郊のアリツチャで開催された折、教皇の夏期宮殿であるカステル・ガンドルフォで特別謁見を賜りました。私たちは謁見の予定時間前に着いたのですが、「急な予定が入つたので、お待ちください」と言われ、約1時間待ちました。

急な予定とは、前日のニューヨークでのテロに心を痛められた教皇様が、在バチカン・アメリカ大使を呼ばれ、詳細を尋ねられ、アメリカの人びとと悲しみを共にしていることを伝えられ、平和を訴えられたとのことでした。

その直後の謁見だったので、大変お疲れになっていたのでしょう。教皇様は人間が犯す罪の重さをやつと支えているという感じ、側近の人に支えられ、謁見の間に入つてこられました。訪日の時のあの若さは影を潜めていましたが、「自分のことよりも、世界の平和を心配なさつていらっしゃる様子」が、訪日の時よりもっと強く感じられ、私にはそれがありありと見えるようでした。そこには、「戦争は人間のしわ

ぎです」と広島で力強くアピールされた教皇様のお姿はありませんでしたが、教皇として、全力を尽くし、「ご自分のすべてを尽くして、広島アピールを世界に実現させるために歩まれた20年後の「平和の巡礼者」のお姿を見ることができました。

「日本からの神父さんですね」

盛岡地区担当司祭 土井 勝吾

1994年3月の朝だつただろつか、記憶の中から正確な日時が消えてしまいました。その時は鮮明に思い出すことが出来ず。私は謁見の前夜かなりイライラしていました。教皇庁からの招待の手紙がわたしたち達の宿舎であるヴィスコンティホテルに届いていないのです。みんなに心配掛けるのでトボケた顔をしていましたが、夜の7時半ごろに手紙が届けられたときはホッとしました。教皇庁の立派な印章が押された見事な封筒でした。教皇庁の案内の方に導かれて席について驚きました。あの巨大な5万人も入ると言われるパウロ6世ホールで、教皇座席の最前列の席でした。パパ様が私に近づいて握手してくださいました。大きく暖かい手だと思いました。「日本からの神父さんですね、苦しい人々

と病人に奉仕されているんですね。」と言われて次の方へ移っていかれました。心の広い温かい、弱い人々の立場に立つ方だと感じました。

<シリーズ> 188名日本殉教者列福の推進 - 金鏢次 兵衛トマス神父 溝部 脩 司教

金鏢次兵衛(きんぱうじへい) つばじひょうえい) トマス神父は、長崎県大村出身、有馬のセミナリオで学び、1614年国外追放、帰国したが司祭になる思い止みがたく、マニラに渡り、アウグスチノ会に入会、1628年セ

ブ島で司祭に叙階されました。1631年日本潜伏に成功、長崎の奉行所に馬丁として働き、夜は信者を励まし助けた。1634年以降、長崎においては神父詮索が厳しくなり、彼の行方を警吏はしきりに追つた。しかし、神出鬼没の彼は捕まらず、金鏢を持つ化け物という噂が流れた。それでも1636年偶然に逮捕され、捕吏を喜ばせた。数々の拷問に耐え、転んだという噂にさえも耐えて、1637年11月6日西坂の丘で穴吊るしの刑で殉教した。35歳。



## 5年後を見据えた宣教司牧のあり方を考える 仙台教区宣教司牧を考える会・代議員会開催

3月21日(月)、仙台教区センター2階会議室で、信徒7名、修道者2名、司祭4名が参加して標記の会議が開催された。

初めに教区管理者平賀徹夫

師より「仙台教区は、司教がいなくなつて9ヶ月が過ぎた。今まで以上に熱を込めて司教を下さいと祈らなければならぬ。しかしながら、司教が居ないからといって信仰がしぼんでしまうことは絶対であり得ない。信仰が喜びとなり、私たちが生きる源泉となつていくか、いつも考えて生きるように努めたいものだ。今日の議案は『5年後を見据えた宣教司牧のあり方を考える』となつてい

るが、資料などによると、どうも将来不安な状態が見え隠れする。そういう状態の中にも神の力が働いている。エウカリスチア(聖体)の中でキリストは『いつもあなたたちと共にいる』と断言し、私たちを遣わしてください。その聖体を中心にして進んでいく教区を作つていきたい。祈りの内に聖霊の

光を願いながら、一緒に考えていきたい」との挨拶があった。議事に入り、「5年後を見据えた宣教司牧のあり方を考える」について、各県、各会での話し合いの報告を受けた。

(紙面の都合で、一部を抜粋)  
【青森県】(信徒)\*高齢化で司祭が減るといふ否定的考えでなく前向きに考えたい。\*家庭集会のような集まりを実施してはどうか。

(司祭)\*活き活きとして行くためには、典礼の再認識が必要。司祭としての役割を日々生きていることが大切。\*宣教の部分では、信徒の養成が必要であり、最前線であるカトリック施設と教会のパイプをしつかりと付けること、カトリック施設の本来あるべき姿を見つめ直す必要がある。\*教会の統廃合も考えていかなければならない。

【岩手県】(信徒)\*信徒の少子高齢化も避けられない。侍者や聖体奉仕者の養成をキチンとしていかなければ。\*共同宣教司牧の場合、司祭は共通の方針で信徒の教育に当たつて欲

しい。\*高齢化で、ミサへの出席のため交通手段のサポートが必要。\*信徒の霊的レベルアップのための勉強会が必要。(司祭)\*子どもたちに信仰が伝えられていない、教会で葬儀をしない信徒が増えている。司祭としてもう一度自分の信仰を見直し、信徒の養成とミサについてもう一度考え直し、ミサの霊性を習得していかなければならない。

【宮城県】(信徒)\*全体として取り組むことは何か、具体的なものが欲しい。(司祭)\*司祭の数をみると小教区定住という形は崩れていく。それぞれのおかれている場の違いによつて意識の差が大きい。

【福島県】(信徒)\*地域ごとの連携、地域内教会の連携が必要。\*司祭、信徒の役割分担をはつきりさせ、出来る事をやつていく。\*定年後に教会のために働ける人を利用する工夫が必要。\*高齢者に対する援助制度の確立。

【修女連】\*司祭、信徒との連携が大切。信徒の役割が重要であり、基礎的な養成が重要。\*共同宣教司牧チームの柱の養成。

【教区顧問】\*司祭団として、「聖体の年」にあたり、聖体をテーマに研修会を開こうということになった。今秋、信徒養成のための司祭研修会を実施する。

これらの報告を受けて、意見交換が行われた。

\*5年後を良いイメージで形成するため、危機感、問題点、良い所などを掘り起こし、意識化していく必要がある。\*(危機感として)秘跡に關しての意識の希薄化。信徒の生き方の世俗化。高齢化だけでなく信仰そのものの生き方。\*1年後、2年後という短期プランと長期プランが必要。\*高齢化・司祭減少に対処するため、組織をどうするかというより、信仰のあり方を見つめること。\*青少年の司牧を考える時、信徒、修道者、司祭が手本を示す必要がある。\*5年後の教会を生き活きたしたものとするよう考えることが重要で、高齢化対策ではない。\*一人ひとりが真のキリスト者として生きていけば説得力もあり、周囲を感化して行く。\*司牧評議会で、四つの課題として、共同体作り、人権、青少年、召命の問題を取り上げ

た。5年後の教会について考えることも、この四つの課題を考える流れの中から出てきたテーマでもある。\*信徒の霊的レベルアップ、生涯教育が大切である。\*信仰共同体としての信仰の見直し、高齢化の波を受けての見直しに基盤を置き、その上で、高齢者問題や青少年司牧問題についての二つの土台の中で出来ることを考えていけばよい、等の話し合いがなされた。今回の協議の内容を代表者会で整理し、次回9月の代議員会で具体的な姿が見えるように進めていくことになった。

また、この会の中で、「人権を考える会」、「青少年活動(WYDへの動き)」、「広報委員会」からの報告も行われた。



受難の水曜日・聖香油ミサ(岡田大司教主司式)

# 教区人権を考える委員会 外国籍信徒に関するアンケート結果

委員長 園部 英俊

このたび当委員会では、教区内のすべての教会を対象に「外国籍信徒に関するアンケート調査」を実施しました。この調査は、各教会における外国籍信徒の方々の動向やそれぞれの教会における対応状況などを把握し、当委員会の今後の具体的な取り組みの参

## 典礼の霊性を深める

神学顧問 佐々木博

### 典礼における聖霊のはたらき

典礼集会は、「聖霊の交わり」によつて、神の民がキリストの唯一のからだを形成するために、一つに結ばれることです。そのため、聖霊は、真の礼拝共同体となるように、まずわたしたちの心を整えてくれます。例えば、ミサの開催の儀での「回心の祈り」によつて、真の交わりを生み出すことが出来るように、聖霊によつて回心し清められる必要があります。また、聖霊はミサの「ことばの典礼」において、まず神の言葉に命を与え、救いの出来事を「想起(記念)させ、さらに「現在化」するのである。

考とさせていただくためのものです。回答をお寄せいただいたのは30教会(青森県7、岩手県7、宮城県10、福島県6)、回収率約58%でした。

集計結果の概要は次のとおりです。

1 「あなたの教会には何人くらいの外国籍信徒が来ていますか？」 人数は様々ですが、27の教会に外国籍の方が来ており、570人くらいになりました。20人以上

そして、たとえばミサの「奉献文」において、「あなたにさげられるこの供えものを、聖霊によつてとつとつとものにしてください。御子わたしたちの主イエス・キリストの御からだと御血になりますように」と司祭は祈ります。また、「その聖霊に満たされた、キリストのうちにあつて一つのからだ、一つの心となりますように」と願います。

このように、聖霊は典礼において、私たちをキリストとの交わりに導き、皆をキリストの一つのからだにしてください。確かに聖霊を吹き入れてくださるので(ヨハネ20・22・23参照)、互いに赦し合い、キリストのからだである教会を育てることがで

のところは、大船渡20、一関25、松木町60、郡山30、元寺小路300。なお、この数は各教会の在籍信徒数を示すものではありません。

2 「出身国は？」 38カ国に及び、中南米12、アジア8、ヨーロッパ7、アフリカ5など。特にフィリピンから来られているかたが多く、ほとんどの教会におられます。

3 「外国籍信徒のかたがたの教会での役割は？」 8つの教会から教会学校や子ども会、外国人のお

るのです。ですから、真の信仰共同体こそが、聖霊のはたらきによつて、相應しい典礼を行うことができるのです。

### 「おひびき」

本誌前号(162号)の「典礼の霊性を深める」で、「超越の三日間」について説明した際、「主の受難(聖金曜日)から始まる」と書きましたが、「聖木曜日の主の晩さんのミサ」から訂正いたします。三日間というのは、あくまでもユダヤ暦に基づくと、第一日目は、木曜日の日没から金曜日の日没までであります。すなわち、最後の晩さんからイエスの死、そして墓に葬られるまでです。ですから、典礼では「主の受難と復活とからなる超越の三日間」は、主の晩さんの夕べのミサに始まり、その中心を復活徹夜祭におき、復活の主日の晩の祈りで閉じる(「典礼暦年に関する一般原則」および「一般ローマ暦」16項)であります。お読みして、訂正いたします。(佐々木博)

世話、集会所司者、教会委員、聖書朗読、通訳、子どもの集いや英語聖歌のメンバー、中高生会での物品販売、侍者、英語講座の手伝いなどを担当しているとの回答。

4 「専任担当者の配置は？」 日本語学習の担当者(一関)、留学生係兼国際交流係(西仙台)、労働者の送迎係(巨理)など。

5 「相談の有無と対応者は？」 半数近くの教会で何らかの相談があつたと回答。おもな内容は、育児・教育、言葉のこと、家族関係、こどもの洗礼、信徒のつとめ、経済的なこと、結婚・離婚・夫婦関係、DV、ビザ手続き、仕事、近所付き合いなど。相談への対応は司祭が行っているところがほとんどで、そのほか日本語指導担当者、地域の国際交流組織のスタッフである信徒など。



バザーに参加する外国籍信徒(元寺小路教会)

6 「教会内外で外国籍の人と関わりをもっている人材は？」 7つの教会から人材ありとの回答。今回の調査により教区内のおおよその状況把握ができたと思

います。調査をお願いしたことが外国籍信徒のかたがたの問題の存在に気付くきっかけになったとのご意見がありました。今後、それぞれの教会において「外国籍信徒と共にある教会とは？」について考えていただければ幸いです。

## 仙台教区の皆さまへ



私儀、このたび2月1日をもってグアドルペ宣教会・日本

管区長の任務を終了いたしました。さらに、総長の命により、メキシコ・シティーにある総本部事務局で働くことになりました。4月から新任務につくためにメキシコ・シティーへ転居いたします。日本に生まれてから19年になりますが、未熟な神学生の時代から今日に至るまで、多くの方々の温かい心遣い、優しい励ましと熱心なお祈りによつて育てられて来ました。このことを深く感謝しております。

### 第3回教区活性化研修会

#### 「集会祭儀」について学ぶ

今回の研修会は、「ミサへの生き生きとした参加」を主題に、今回は「(司祭不在の時の)『集会祭儀』」について、各県ごとに開催された。また、参加対象を特定せず、希望者の参加により、各県とも、熱気に満ちた研修が行われた。

#### 岩手県

日時2月6日(日)午後1時～3時30分

場所 若手カトリックセンター

・四ツ家教会

講師 宮古教会主任司祭のフエリペ・クエバス神父

参加者 岩手県内12の教会から、71名

初めに集会祭儀を行うための六つのポイントについて話された。

仙台教区独自の式次第の必要性について。集会祭儀をさげる前に主日の重要性への認識を深めること。ミサとの違いを強調すること。だれが集会祭儀を行うか。奉仕者の養成と共同体の養成について。司祭と共に準備すること。

特に、との箇所が強調されたことは、集会祭儀はミサの代わりではないこと。集会祭儀

名譽職でもなく奉仕者であるということ。

次に「仙台教区集会祭儀式次第」の説明が行われた。多くの方から質問が出され、休憩時間をとらずに最後まで答えてくださったフエリペ神父様に感謝の気持ちで研修会を終えた。

(伊藤宏子)



の目的は、主日の司祭不在の時に集まって共同体の一致を深め、神に祈ることであり、ご聖体をいただくことがメインではない。又、任命された奉仕者は、信仰のエリートでも、

#### 【参加者の感想】

分かりやすく非常に有意義な講話でした。「主の日」の重要な再認識が、集会祭儀への積極的な参加のため注目すべき点であると教えられました。主の名のもとに集まった人々の中に、またみことばとパンの中に、復活したイエス様のより鮮明な御姿を見出して行きたいと思いました。

(志家教会 小針久典)

#### 福島県

日時 4月10日(日)午後1時

3時

場所 郡山教会聖堂

講師 グアダルベ会 イグナシオ・マルティネス神父

参加者 約50名

冒頭、イグナシオ神父は、もらったテーマに少々当惑を覚えていた、といいながらも「ミサのためのチェック・リスト」左表を示された。このリストは、10のチェック項目からなるっており、これを5段階で評価するとこれはあくまでミサを各

場が考える上でのヒントとしてつけとめていただきたい、とのことであった。

神父は、子供の信仰教育のためには、ミサ中「泣き部屋」に閉じ込めておくべきではない、「皆さんの家庭に泣き部屋がありますか？」と説かれた。また、共同祈願は共同体のための祈願であり、各小教区共同体の独自性を盛り込むべきものではないだろうかと思われた。

司祭の説教についても、事

#### ミサのためのチェックリスト(抜粋)

あなたはミサにどのように参加していますか。あなたの教会のミサは生き生きとしていますか。5段階で評価してみましょう。

あなたにとってミサは

- 5. 日曜日が待ち遠しい
- 4. 何よりもミサを優先する
- 3. 義務だから仕方なく行く
- 2. 都合がいたら行く
- 1. あまり行きたくない

あなたはミサに

- 5. 始まる時間より早めに行く
- 4. 定刻ぎりぎり
- 3. 時々遅刻する
- 2. だいたいいつも遅刻する
- 1. あまり遅れたらさぼる

ミサの奉仕は

- 5. みんなが積極的にしている
- 4. 婦人や若者もしている
- 3. 毎月、当番で決めている
- 2. 活動的な人だけで交替する
- 1. いつも決まった人がしている

聖歌は

- 5. 大人も子どもも元気に歌っている
- 4. うまくはないがよく歌っている
- 3. 聖歌隊だけがよく歌う
- 2. オルガンの音だけがうつろに響く
- 1. あまり歌わない

共同祈願は

- 5. いろいろな人が自発的に祈る
- 4. 当番がその人のことばで祈る
- 3. 「聖書と典礼」を何人かで祈る
- 2. 「聖書と典礼」+教会の祈願文
- 1. 先唱者が「聖書と典礼」を読む

平和のあいさつは

- 5. 自分の席を離れて自由にする
- 4. 周りの人と握手や挨拶をする
- 3. 向かい合ってお辞儀をする
- 2. 一人しらけている
- 1. 全然しない

派遣の祝福の後

- 5. 次は友達を連れてきたくなる
- 4. 社会に派遣されたという意識
- 3. 新しい気分になる
- 2. やっと終わったとホッとする
- 1. 疲れたという気分になる





前に司祭と信徒が協力し合っ  
て準備してはどうだろうか  
と提案された。

ミサの準備は香部屋の準備  
だけではなく、共同祈願の準備  
説教の準備も重要であると強  
調された。

その後の質疑応答の内容を  
見ると参加者各自それぞれに  
得るところの多い研修会であ  
ったように思われる。

(佐々木善英)

【参加者の感想】

受洗してまだ日の浅い私が  
参加してみようと思いつた  
理由はテーマ「ミサへの生き生  
きとした参加」に魅力を感じた  
からです。

参加者が「ミサのためのチェ  
ックリスト」に記入しながら真  
剣に自己採点しました。これが

私にとっても励みとなり豊かな  
実りのある爽快な1日でした。  
皆さんにもぜひお勧めいたし  
ます。ありがとうございました。

(野田町教会 松本雪子)

宮城県

日時 4月10日(日)13時~16  
時

場所 仙台司教区センター・元  
寺小路教会大聖堂

講師 シャール・エメ・ポルデ  
ユック神父、佐々木博神父

参加者 約120名。

開会の祈り、オリエンテーシ  
ョンの後、第一講話として、シ  
ヤール・エメ・ポルデュック神  
父が、仙台中央地区の共同宣教  
司牧の現状と、過去5年間の

「集会祭儀」実施の経過など  
について約20分話された。

5年間の取り組みの中で、初  
めは信徒から反対の意見もあ  
ったが、徐々に風向きが変わっ  
てきた。共同体としての意識の

変化、信徒同士の信仰の見直し  
信仰の深まりが見られるよう  
になったなどの成果が現れて  
きたことを強調された。

第二講話は、佐々木博神父が、  
「集会祭儀の典礼的意義をさ  
ぐる」の資料と、「仙台教区集  
会祭儀式次第」をもとに約1時  
間20分話された。

主な内容は、  
典礼の主体である礼拝共同  
体

(1) 典礼の共同体的特質

典礼行為は、個人的行為  
ではなく、聖なる民である  
教会の祭儀である。

(2) 集うことの意義

日曜日「主の日」であ  
る。信徒はこの日教会に集  
うことは、他のどんな集会  
よりも優先すべきである。

ミサの基本的構造

ミサは、『主の記念』を祝  
うための神の民の集会であ



る。ミサは、「ことばの典礼」  
と「感謝の典礼」が密接に結  
ばれている。

集会祭儀とは

「ことばの典礼」と「交わ  
り(一致)の儀」によって構

成される。

集会司式者の任務は、兄弟  
への奉仕であることを自覚  
しなければならない。

典礼における「みことば」の  
大切さ

典礼を行ううえで、聖書は最  
も大切である。カトリック教会  
は、ミサの中で、「聖体祭儀」

が中心となり、「みことば」が  
軽んじられる傾向があった。こ  
れは十分に反省しなければな  
らない。共同祈願も「聖書と典  
礼」の中の例文を使っている教  
会が多いが、各教会ごとに、独  
自の共同祈願を行うことが望  
ましい。

講演のあと、質疑応答が行わ  
れ、集会祭儀とミサの違い、司

式者の役割などについて質問  
があり、2人の講師から具体的  
な説明があった。

司祭不在による「集会祭儀」  
を(やむなく)行うことにより、  
さらなる「生き生きとした」ミ  
サへの参加が出来ることを願  
いながら、午後4時に散会した。

【参加者の感想】  
今まで、聖体拝領について司  
祭を通してご聖体をいただく  
ことが大切と考えていました  
が、今回の研修会のお話を聞き、  
教会の日曜日の「主の日」に集  
い、その交わりを通してご聖体  
をいただくことに、はつきりと  
した理解が出来たと思えます。

(東仙台教会 佐藤定雄)

カトリック米川教会 50周年記念ミサご案内  
米川教会は本年50周年を迎えます。

恒例のキリシタンの里祭りにおけるミサ  
において50周年を迎える感謝をもささげたい  
と存じます。皆様のご参加をお待ちして  
おります。

日時：2005年6月5日(日)午前11時~

場所：登米市東和町米川網木三経塚

日程：11:00 50周年ミサ

(司式 仙台教区管理者平賀徹夫師

説教 前米川教会主任司祭 高橋昌師)

12:30 親和会館前広場で交流会・昼食

(昼食は交流会会場でお買い求めください)

連絡先：佐藤憲一 0220-45-1661(自宅)

会津神父 0228-22-2324(築館教会)

\*くりこま高原駅まで中型バスを用意します。

利用ご希望の方は早めにお申し込みください。

# 特別論稿

## 幸福とは なにか

仙台北百合大学教授  
東北大学名誉教授

岩田 靖夫

2月20日、仙台ロゴス研究所主催による第3回講演会が北仙台教会信徒館を会場に行われ、80余人が集まり、ギリシア哲学の研究者で国の文化功労者である岩田靖夫氏（元寺小路教会所属）の講演に熱心に聴き入った。以下にその要旨を掲載する。

### 幸福は三つの層からなる

第一の層は自己実現であり、第二の層は他者との交わりであり、第三の層は大きなものに自分を委ねることである。これら三つの層は別々にではなくて、重なり合って存在している。これらを生きたるとき、人は幸福になる。

### 第一の層は、自己実現である

自己実現とは自分がなにもかになること、あるいは自分で自分を律することである。人間のあらゆる行為は善を目指している。世の中に悪を悪だと知って行為している人はいない。ソクラテスが言うように、悪をする人はみなそれを善だと思っている。大事なことは、自分で勝手に善だと思っていることがほんとうに善なのかどうかである。

ところで、人間の行為はアリストテレスが言うように、バラ

バラに散らばっているのではなくて、目的・手段連関のうちにある。それは、すべての行為の連関をたどって行くと、最後に究極の目的にたどりつくということである。究極の目的は何かのための行為ではなく、それ自身が目的であるような行為である。何のためでもない、それ自身のための行為である。それが最高善であり、それが幸福である。

幸福の中心・内実とは何か。それは、アリストテレスが考えたように、人間の卓越性（アレテー、virtue 徳）に即した魂（プシユケ、いのち）の活動である。言いかえれば、人間のいのちが十全に働いていることである。それはさらに言いかえれば、人間に固有の理性がいのちの活動全体を統括していることである。ロゴス（理性）によるパトス（衝動）の統御、そ

れが倫理的な生である。自己実現とは人間のもっている生得の能力の発揮であるが、それらの活動は有徳の活動を土台にしていて、その上に立って始めてよいものとなるのである。健康とか、美しさとか富とかの外的な善は、それ自体が善なものではなくて、幸福の核になる有徳な行為を土台にしてはじめて善となる。この核が駄目になればすべてが悪へと転化する。この核がしっかりしていれば、己の能力に応じてやりたいことをやればよい。

### 第二の層は、他者との交わりである

人間は一人では生きられない。プラトンの国家論やアリストテレスの政治学で述べられているように、共同体の構成員は各人一人ひとり社会において異なった役割を遂行しているが、一つの目的に向って共同して働いている。それゆえ、人間は社会的に役に立たなくなつたとき絶望してしまう。社会に貢献しているという自覚が大切である。言いかえれば、人間の存在の意味は他者からくる。人間は大地（他者や社会）の上に立って存在するのであって、他者から肯定されること

が人間にとって大事である。それ故、孤独が人間の最大の不幸

である。だから相手になれなくなつたとき人は狂気におちいる。ところで、他者とは、自由な存在であるが故に無限に高い存在であることを忘れてはならない。それ故、他者との関係は無限に高い存在であり、したがって、いつも「仕える」という関係でしかありえない。



人は無力な己をさらして生きる時、他者が己を開いてくれる可能性がある。「貧しい者は幸いだ」といわれるとき、その意味は、貧しい者は無力だから愛し愛される可能性のうちにあるという点にある。

### 第三の層は、大きなものに己を委ねること

幸福のもつとも根底的な層は大きなものに己を委ねることである。われわれは、自分の手のうちに自分の存在根拠を

もっていない。われわれの存在はどこかからの贈り物である。われわれはいつか死ぬ。存在の贈り手が「終わり」と言つたと、われわれは死ぬ。だから、生きていても、死ぬことになつても、あるがままにあることが究極の幸福である。

浄土宗は阿弥陀様を「親様」と言つ。イエス様は「おとうちゃん（アツバ）」と言つ。同じことである。天地万物の創造主は親の中の親。子供のために苦しまない親はいない。創造とは神の愛の発露にほかならない。だから、われわれは創造主の善意に身を委ねていけばよい。「天の父は、善人の上にも悪人の上にも、陽を上らせ、雨を降らせて下さる」のである。

すべては向こうから、天地万物の創造主である「おとうちゃん」から「ただでやってくるのである」。そういう境地で生きられれば、人間は安らかに生きることが出来るだろう。人間が勝手に正しいとか、悪いとかとあたふたする必要はない。善意そのものの神の創造という行為のうちに、すでにすべての被造物の救済が含意されているのである。すべては「ただのただ」、われわれは安心してお願いし、と祈っていればよい。

（文責 佐藤英樹）

# 《主の恵みに活かされて》

## 復活祭受洗者に聞く

今年の復活祭も、教区内各教会で、多くの方が洗礼の恵みにあずかった。

教区広報委員会で、これらの方々にアンケート取材したところ、16人の方から回答を頂いた。ご協力くださった方に感謝。

紙面の都合で、全部を紹介できないのが残念ですが、可能な限りご紹介します。(敬称略・順不同)

### 【アンケートの内容】

洗礼の動機(きっかけとなったこと)

洗礼を受けるにあたって影響を受けた人

洗礼を受けてから変わったこと

### これからの決意

マリア・成田加智枝(八戸塩町) 神に祈りをささげることで、喜び、感謝がわきあがり安らぎを覚えるから。 曾野綾子、ゲオルグ・シュトルム神父、シスター・ジャン・フルニエ 心が解放されて一新され、人に対して寛大になりました。 神の召命を生きている教会の一員

になること。「捧げることに、より大きな喜びがある。」(使徒20・35)

ベルナデッタ・大友由美子(巨理) マザー・テレサの本を読み、彼女にここまで強い信念を持たせたのは何かと疑問を持ちました。そしてたどり着いたのが「カトリック」でした。

マザー・テレサ 晴ればれとしたうれしいような感じがしています。又、多くの方々に祝福の言葉を頂き、感謝の気持ち一杯です。 これからも勉強に励みたいと思います。

マリア・遠藤マリ子(東仙台) 2003年、夫が肺がんでスヘルマン病院ホスピスに入院。友人やその妹さんに大変お世話になり、病者の洗礼を受けることができ、04年1月安らかに

天国に旅立ちました。東仙台教会で皆様に送って頂き大変感謝しております。 私も死後は、

夫の居る所に行くことが出来る事を望んで洗礼を受けました。 東仙台教会京早苗さん 夫が逝った当時は悲しみばかりで、何事もすることができず、外にも出ませんでした。でも、

教会のミサや聖書の勉強などに行くようになり、少しずつ元気になるようになりました。 これからしっかり勉強して行きたいと思っています。

カタリナ・大沼紘子(大河原) カトリック信者の夫と結婚し、32年になります。以来、熱心とはいえないが教会に通い、4人の子どもも受洗致しました。私自身はなかなか決心がで

きなかつたが、今回定年を迎えるにあたり決心しました。 それ

は、今までの人生で、心の支えとなつたのが、教会であり、イエス様の教えであると、改めて思ったからです。 教会の皆さんが長い目で見守ってきてくれたこと、私の受洗を心から歓迎してくれたことに感謝して

います。 聖書を読み、神様の教えをよく理解していきたい。素直に感謝の祈りをささげることが出来るように生活していきたい。

トマス・モア 熊坂武志(元寺小路) 聖書の言葉が自分の事として神様から語りかけていることに気が付いたからです。私の罪の為に、命まで捧げて下さるほど愛して下さる神さまに、これからの人生を掛けたいと思つたから。 梅津明生神父

### 聖ウルスラ修道会

佐藤 かおり

私は、4月16日に初誓願宣立の日を迎えました。本当に、これまで教え、支えて下さったシスター方、様々な形で関わって下さった方々、家族、そして神様の恵みのおかげだと感じています。

私たちは、イエス様のご復活後、誰に言われても弟子たちがなかなかそのことを信じ

なかつたということを知っています。 私は、弟子たちが、「イエス様は十字架の上で死んでしまった」ということを

はつきりと見ていたので、それ以外のことは考えられなかつたからだろうと感じます。そして、ここから「信じる」ということは、まったく自分の力を超えたこと、神様の恵

### 招きのことば



みによることだと思ひました。私も今、見えるような見えないうような、自分をはるかに超える方を信じ、その招きに応えようとしていきます。修道生活という形で、イエス様に従つていこうとしているのです。



様 何時も、どんなときでも、信頼できる神様と共にいられることに安心感が得られます。この世の全ては神さまが創られたものと思つと、何事にも感謝できるようにになりました。 テレサ 由中美奈子(八木山) 悩みを抱えて、辛くて初めて元寺小路教会へ行ったのは23年前の中学1年生の時。以来、節目節目に教会の教えに頼ることが多かつた。洗礼は親から反対されていましたが、夫の了承を得られたので、今回長年の夢だつた受洗となりました。八木山教会の土曜学校を通して子どもたちとも神様について語り合えることが出来たのも、大きな幸せでした。 三浦綾子 渡辺和子両氏の著書に影響を受けました。心がとても穏やかにになりました。ご聖体をいただくたびに「私なんかがいただいていいのだろうか」と思う気持ちと、こんな自分を許して愛してくださる神様への感謝で胸がいっぱいになります。「愛は近きより」を実践できるように、まず自分の周囲に向き合つていきたいと思ひます。若者への教育を通して、少しでも神様のことを話していけるようになりたいと思ひます。

# 助祭に叙階されて



舟山 亨

【3月23日(受難の水曜日)岡田武夫大司教の主司式により、聖香油のミサと助祭叙階式(受階者・舟山亨氏)が仙台教区カテドラルで行われた。】

先月23日の助祭叙階式に至るまで、皆様には本当にお世話になりました。厚く御礼申し上げます。

さて、教皇様が帰天されて追悼ミサが行われたばかりですが、私にとって24年前の教皇の日本訪問は大きな衝撃でした。日本訪問は大きな衝撃でした。

教皇来日当時、オカルトや予言がブームになり、人々の恐怖心をいたずらにあおった書物が氾濫していました。その結果、社会に精神的・倫理的な歪みを生じさせてしまったのです。人間の根本的な感情には、大きく「愛」と「恐れ」があり、愛は先天的なもので、恐れは後天的だ

大きな実りをもたらすのはそう遠くないと確信しています。『仙台教区に赴任しました』デュベ・ジル神父



初めて日本に来た時(1975年)、私は30歳でした。

その3年後、私は青森市の篠田教会と松ヶ丘教会と保養園にある巡回教会の主任司祭になりました。そして、1987年から、2001年まで本町教会の主任司祭を勤めました。

結局、私はほとんど26年の間、青森市に住みました。本当に青森市の信者たちとの付き合いによって、幸せな日常生活を過ごし、彼らのおかげで、もっと深い信仰を持つことが出来たと思います。今も感謝の気持ちで一杯です。2001年の初め、ケベック宣教会の総長の願いを受けて、4年の間、私の会の事務局の責任者になりました。この使命を果たしながら、自分の会の全てのメンバーを知ることで出来、彼らの熱心な働きに対して、大きな感謝を持つようになったのです。

## 新米神父行状記

川崎 忠紀

いつものごミサ

日曜日、今日も9時からごミサが始まる。いつもと違うのは侍者だ。侍者を手伝ってくれる子供たちが、めずらしく一人も来ていない。見回したところ、小学三年生の子が一人いた。本人に「やりたい」意志があるので手伝いをお願いする。

今回で3回目だと言う。勇気のある子だと思う。侍者の動き方についてはその都度私から言うことにして、ごミサが始まった。

福音朗読の後説教をしていて、信者さん方がいつもとちがい明るいというか何か暖かい雰囲気になっていることに気がついた。「私のお話は下手だけど、少しは上達したのかな？」なんて思ったものの、そんなことは少しもなかった。この雰囲気を創っていたのは、侍者のしぐさだということをミサ後に知ることになる。

例えばぶどう酒を運んだ後、そのピンのにおいをかいでしかめて顔をそらす様子であったり、聖体奉仕者が聖ひつをあけてご聖体を取り出すとき反対側まで行ってのぞき込むなど、上げたらきりがないほどであったらしい。

目の前にあることに素直に反応していく侍者。会衆の多くはこの侍者を通してごミサに参加していたことだろう。小さな子供の「イエス様のお手伝いをしたい」という意志が、多くの方の顔をほころばせるなんて、イエス様も喜んでいたと思う。

退堂のとき、長い袴のようにずり下がった侍者服(ここの侍者服は上下セパレートになっていて、下はスカート状になっている。そして彼は細身で小さかった。)を、「香部屋まで持たせるぞ!」というような意気込みで右足で蹴りながらローソクを持って進む姿は、とっても印象に残っている。(川崎神父は、5月5日で叙階1周年を迎えます。もう、『新米神父』とは言えません。よって、今回で最終回と致します。寄稿有難うございました。=編集部=)



ただいま！メキシコから日本に戻ってきました。ホ

千敬司様をはじめ、司祭、信徒の助けで、素晴らしい人生のページを作ることができました。ありがとうございます。

特に、天国に召された、佐藤から頑張っていきたくて思

た！。私は(去年聖体大会が行われた)グアダラハラ市にあるグアダルペ外国宣教会の神学校に住んで、7年間、信徒宣教師、修道者、司祭などを目指す人たちのために働いてきました。今、私は神様をはじめ、自分の家族とグアダルペ会の責任者に感謝をしながら、再び日本へ来ました。復活したイエス様が望んでいらした、平和、正義、喜びの社会を目指してこれからも頑張っていきたくて思

今度、4月初め、日本に戻ってきて、弘前教会の主任司祭として新しい出発を致します。信者たちの温かい協力を頂いて、聖書のみことば、特にキリストの豊かな教えの証し人となるように一生懸命がんばりたいと思っています。仙台教区の一員として、正しく神様の

区の一員として、正しく神様の

み旨に出来るように、心から皆

様のお祈りをお願いします。よろしくお願いたします。ホアン マルチネス神父

# 各地から

## 青森 弘前教会

例年になく大雪に見舞われた津軽路、弘前にもようやく春の訪れを感じる昨今、カナダよりお越し下さいましたデユベ神父様が4月6日に当教会に着任され、信者一同安堵しております。



今年の復活祭には、大きな喜びがありました。受洗者2名、高橋洋至さん、和子さんご夫妻です。お二人を指導してくださったエノ神父様にとってもご夫妻での授洗は初めてのケースとのこと、弘前教会にとっても本当に素晴らしいニュー信者の誕生は嬉しいかぎりです。復活祭ミサでは聖歌隊の歌声の素晴らしさが、より一層ミサの雰囲気盛り上げ、とても短時間の練習とは思えない出来栄でした。

## 岩手 千厩教会

(成田孝夫)

聖堂が幼稚園の新築と同時に併設されてから10年が経ちました。平成14年7月、目の前を流れる千厩川が氾濫して床上5センチの浸水被害を受けました。暖房設備などが使えなくなりました。周辺の教会のお力添えをいただき、復旧し、お蔭様で何とかその冬も無事に乗り越えることが出来ました。

弘前教会は、昨年130年目を迎えました。1874年(明治7年)フランス・パリ宣教会のアリヴェ師が来弘され、宣教を始めて131周年にあたります。その長い歴史と足跡にいつも神様の恵みがあったこと。また、この教会の素晴らしい祭壇が弘前市の重要文化財に指定され、修学旅行や大勢の旅行客の訪れる観光コースにもなっていることなど、このよ

も司祭が不在なので、一関の巡回ということになりました。千厩教会は毎週土曜日に主日のミサをささげておりますが、あずかる信者は10人弱というところ。復活祭には一関教会で、また5月は毎年水沢の後藤寿庵祭と米川のキリシタンの里祭りに参加するなど、次第に近隣教会との行き来が増えていきます。

教会が献堂されてから、55年が経ちましたが、信徒の数は増えないものの併設されている幼稚園によって地域社会へ貢献していると思えます。また、信徒の聖書勉強会も始まりました。

## 宮城 一本杉教会

(細谷力一)

私たちの教会は、来年7月、創立50周年を迎えることになり、準備委員会を立ち上げて、今から準備に取り掛かっていきます。これは、1956年ジャン・ルイ・フォーレ神父(ケベック宣教会)が、この地で福音宣教を開始したことに起因します。

50周年の記念事業も、単発的な打ち上げ花火に終わらないように、次の4つの目標を立てました。

信徒としての霊性を高める。教会共同体の一致を深める。

福音宣教の拠点となる教会。仙台中央地区他教会との連携を密にする。

この目標を達成するために、信徒全員が、一人一役を担って準備に取り掛かっています。どうぞお祈りください。また、かつて、一本杉教会に籍を置かれた方は、ぜひメッセージをお寄せ下さい。

## 福島 喜多方教会

(岩井 誠)

初聖体を受けられた遙ちゃん、友里ちゃんおめでとうございます。

ホアン神父様(メキシコからご着任)を皆様にご紹介します。宜しくお願いします。宜しく願います。

今年の復活祭ミサの祝賀会「写真」の会長発声です。私たちの喜多方教会は、会津を横断する日橋川の北部、耶麻地方を地域とし会津若松教会から分かれて40年を越したところ。当時10家族ぐらいたが喜多方に移ったので、会津若松教会で培われた家族的な雰囲気は一層強く今に至っているのか、ご

ミサ後のお茶会、復活祭とクリスマスには手作りのお赤飯をメインにしたパーティが開かれています。

## 幼稚園があり、修道女会様もおられた恵まれた環境になれて、老境に入った私たちにとって、今シスター方がいらつしや



考えると言い様のない気持ちです。明るい教会、世間から憧れをもたれる教会となるよう皆様方のお祈りを切に希望して近況と致します。(山田 勉)

# 活動紹介

## アンジェラスの会

障がい者の方が喜んで教会にこられるために昨年の本誌9月号で、私たちアンジェラスの会の総会と勉強会の様子を載せていただきました。

仙台教区視覚障がい者アンジェラスの会は、今年で結成13年目を迎えます。写真は結成時のもので、1992年(平成4年)東仙台教会において誕生しました。

呼びかけてくださった人は、加藤保子さん(故人)(東仙台) 小川利秀さん(石巻) 清水文雄さん(いわき湯本)の方々でした。

現在の会員数は21名になりました。

アンジェラスの会が誕生する背景には、平成3年に仙台の元寺小路教会で「日本カトリック障害者連絡協議会」全国総会が開かれた折に、全国の障がい者の発言から刺激をいただいた

たことにあります。

アンジェラスの会の目的は「主のみことばに交わるものとして親睦を深め、全ての障がい者の尊厳と人権が活かされること」の実現を目指しています。

発足時から目の不自由な私たちと小教区とのふれあいの会を開いていただき、共にミサ

大切ですが、話し相手の少ないことから孤立しやすい面が生まれます。

現在、教区のご支援を得て点字による教区報や、点字が読めない方には教区報録音テープをお届けしています。

今年のアンジェラスの会の総会は、7月18日(月)を予定しております。全ての障がい者の方が、喜んでこられる教会になれるように祈りつつ。

(連絡先 022 245 2220 大島喜四郎)

## 修道院紹介

シャルトル聖パウロ修道女会

盛岡修道院

オズーフ司教様とジャック神父様に派遣要請を頂いたのは1892年で、函館に最初の修道院を建ててから14年経つてのことである。四ツ家教会の隣接の地に用意された住居から子女の教育・福祉活動を通して「みことば」の宣教を始めた。

23年前に現在地、山岸に移転した。山岸は文字どおり緑豊かな地で、大自然のなか四季にめぐまれている。木陰からカモシカの姿をみることもあり、和や

## 私の気分転換

桜の聖母学院理事長

シスター今泉ヒナ子

長い、長い間、仙台教区にお世話になったのち、二度転勤して、一七年ぶりにまた福島に舞い戻ってまいりました。よろしくお願ひ申し上げます。

気分転換ですか?...

何だか、毎日の生活そのものが気分転換になっているような気がしているのですが、何という極楽トンボでしょう。大体、今やっていることがいつも楽しいのです。人生、つらいことも当然ありますが、それでも、基本的に楽しいのです。

考えてみれば、ただ歩いたり、人とおしゃべりしたり、漫画を描いたり、笛を吹いたりなど、安上がりで好きなことが結構あって、それらに助けられている面もあります。

今の自分や環境を、すべて感謝して神様から毎日いただく習慣を、いつの間にか身につけさせていただいていることもあるでしょうか。

恐らく、あまり気分転換を必要と感じない性格に作られているのでしょうか。どこかが欠落しているのかもしれない。せんね。



をささげて、分かち合いの中から多くの方々が理解と協力の輪を広げてくださっています。目が不自由で、また耳が不自由なために自分から声をかけることの機会が少なくなりま

かな落ち着きは心を神に引き寄せる。使徒職の中心は教育事業で、若手県下唯一のカトリック学校であり幼・小・中・高校の女子一貫教育に励む日々である。

盛岡駅から5キロ、四ツ家教会とも距離が生じたが、第二修道院はご存知の方々も多く、黙想・研修・練成などの会場として皆様に親しまれている。現在私どもの構成は11人。(栗又)

**WYDケルン大会参加者**

仙台教区から、8月ドイツ・ケルンで行われるワールド・ユース・デイへの参加者は、次の19名に決定した。お祈りください。

Fr.木村国基(仙台教区) Sr.長谷川昌子(東仙台) 舟山亨(仙台教区助祭) 加藤さゆり(気仙沼) 前田朋子(鮫町) 小笠原光二(十和田) 齋藤さやか(松木町) 熊谷典子(白河) 野田智子(八木山) 渡辺顕一郎(八木山) 芳賀隆太郎(北仙台) 佐藤紫乃(北仙台) 川中翔太(巨理) 川中庸仁(巨理) 御供真人(一本杉) 井口一路(大河原) 井口輝(大河原) 高山徹(八木山) 安富良輔(八木山)